

エビの体内に入っていた異物の正体は？

先日、「エビを食べようとしたら、体内から紐状^{ひも}の物が出てきた。正体は何か？」との問い合わせがありました。送られてきた写真には、紐状？虫状？の物が写っていました（図1はアカエビの事例）。

エビ類の寄生虫では、アカエビヤドリムシが知られていますが、今回の異物とは全く異なった形状です。

未記載(新種)の寄生虫？、エビ自身の組織の一部？と思いつつ、インターネット上で情報を探したところ、「エビを食べていたら、こんな物が出てきた。寄生虫ですかね？」といった情報が、複数見つかりました。しかし、肝心のその異物の正体は不明のままでした。

再度、寄生虫図鑑、エビの解剖図鑑、インターネット上の情報等を探索したところ、遂に、それらしい物を発見しました。紐状の異物は、雄エビの輸精管の可能性が高いと思われました。輸精管とは、精巣と貯精囊を結ぶ管です。

図2にクルマエビの輸精管を示しました。青色部分が精巣で、黄色部分が輸精管です。輸精管は、エビ類では頭胸甲(頭部)にあり、雄エビの頭部と尾部を切り離すと、頭部の断面に左右1対の白い輸精管が見えます。輸精管はある程度の太さがあるため目立ちます。つまり、異物とされていた物の正体は、寄生虫ではなく、エビの体の一部ということでした。

なお、雌には同様の組織として輸卵管がありますが、非常に細く、死んだ直後のエビを丁寧に解剖しないと見つからないそうです(生食用の鮮度の良いエビでも、輸卵管を見つけることはほぼ不可能)。

最後になりますが、水産研究・教育機構水産技術研究所 南勢庁舎(三重県)の奥村卓二氏から、エビ等の輸精管や輸卵管等に関する貴重な資料・情報・アドバイスを頂戴しました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

(海面・内水面増殖研究室 増成)

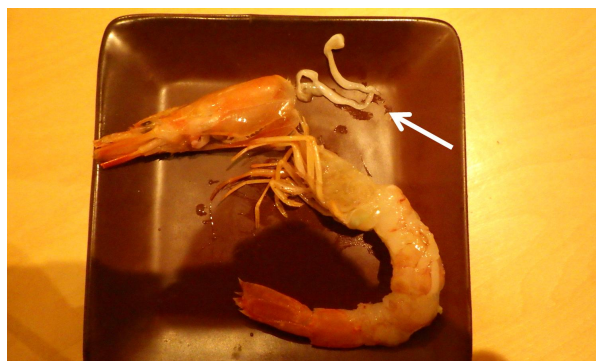


図1 アカエビの体内に入っていた異物？

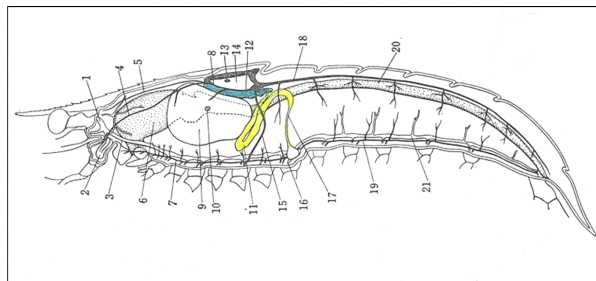


図2 クルマエビの輸精管(黄色部分(11))

椎野季雄, 1964: 動物系統分類学7(上), (株)中山書店, 251. を改変. 青色部分(12)は精巣.